城東区人権サミット

こどもの発達を知ることから 支え合うまちづくりへ

~発達の気になるこどもたちは、何を思っているのだろう~

会場:城東スギタクレストホール

手話通訳あり

13:30 開演

第1部 基調講演

「発達の気になるこどもたちは、 何を思っているのだろう」

せき まさき

容

講師:関 正樹さん (児童精神科医)



第2部意見交換会

ファシリテーター:関 正樹さん

池田 有美さん(子どもの発達が気になる親の会「にじいろ」 代表)

石原 昴侑さん(特定非営利活動法人あそーと 代表理事)

壇 杉本 宏美さん(大阪市立すみれ小学校 学校長)

巽 城東区役所子育て支援担当課長代理

山野 城東区役所家庭児童相談員

主 催: 城東区役所 協力:城東区地域自立支援協議会

テーマ こどもの発達を知ることから 支え合うまちづくりへ

発達の気になるこどもたちは、何を思っているのでしょうか。 おとなはどのように受け止め、寄り添えばよいのでしょうか。 「発達障がい」の特徴について正しく知ることから、 一人一人を大切にし、必要な環境を整え、地域での理解と支え合いの まちづくりにつないでいくにはどうすればよいかを語り合い、 障がいのある方の人権擁護について考えましょう。

第1部 基調講演 (13:30~14:30)

「発達の気になるこどもたちは、何を思っているのだろう」

講師 関 正樹さん(児童精神科医)

プロフィール

1977年生まれ。福井医科大学卒業後、岐阜大学医学部付属病院、土岐市総合病院を経て現在は大湫病院(岐阜県瑞浪市)勤務。地域の児童精神科医として、発達障がいや不登校などの診療にあたるとともに、地域発達障がい支援システムなどの調査研究、療育施設や福祉施設などの職員への支援、座談会や親子勉強会を通じた家庭支援などに従事。また、最近では子どもとゲームやネットとの関りについても各方面で発言を行っている。

著書:「発達障害をめぐる世界の話をしよう」(共著 批評社 2020年) 「小児科医・かかりつけ医に知ってほしい発達障害のこと」(南山堂 2022年) など

(休 憩)

第2部 意見交換会(14:40~15:30)

ファシリテーター 関 正樹さん

(協力 城東区地域自立支援協議会)

池田有美さん 子どもの発達が気になる親の会「にじいろ」代表 (一般社団法人コトモット代表理事)

大阪体育大学卒業後、保育士資格を取得。2014年、障がいの有無、年齢にかかわらず楽しめるヨガや運動遊びの「コトモット」を立ち上げ、関西各地に出張指導をしている。発達の気になる子どもの運動指導や自身のストレスケアについて、保育士研修等で支援者のサポートも行う。(下記QRコード参照)長男(現高校3年生)の子育てで苦労した経験から、同じ悩みを共有&情報交換の場として、子どもの発達が気になる親の会「にじいろ」を城東区子ども・子育てプラザにて毎月第2木曜日午前中に開催。2021年、城東区で

「関目つどいの広場うたたね(大阪市地域子育て支援拠点事業実施施設)」を 開設し、日常的な親子の居場所づくりを行う。



杉本宏美さん 大阪市立すみれ小学校 学校長

1962年生まれ。大阪教育大学卒業後、大阪市立小学校教員としてスタート。市内4校で勤務した後、教頭、大阪市教育委員会主任指導主事を経て、2016年12月より平野区大阪市立喜連東小学校校長、2021年4月より城東区大阪市立すみれ小学校長を務める。

学級担任として管理職として現在まで多くの子どもたちに出会ってきた経験の中で、私自身が大事にしてきたこと、子どもたちから学んだことを少しでもお話できればと思っています。

石原昂侑さん 特定非営利活動法人あそーと代表理事

(大阪府立高校スクールソーシャルワーカー)

大学生時にアルバイトとして知的障害のある人達のガイドヘルパーに従事。 夏休み期間はガイドヘルパーとして自閉症の小学生と 1 日 3 回市民プールへ行 く。卒業後、(社福) 北摂杉の子会にて自閉症・発達障害のある人の支援に取り 組む。2013 年特定非営利活動法人あそーとを設立。

就労継続支援 B 型事業にて支援を行う中で、10 代からの支援の必要性を感じ、2017年より府立高校 SSW としても勤務を開始。同時に府立高校にて高校内居場所カフェ事業を開始。詳しくは WEB サイトをご覧ください(下記 QR コードより)。



城東区役所保健福祉課子育て教育担当

巽課長代理 山野家庭児童相談員

当区には家庭児童相談員が4名おり、3歳健診以降18歳までのお子さんのことで心配なことがあれば、相談に応じています。相談の内容としては、児童虐待や不登校、障がいや非行、問題行動からしつけやかかわり方まで、児童に関連した全般の相談に対応しています。

その中で「発達」に関してのご相談も多く「発達障がいではないか」「発達障がいと診断が付いた。どうしたらよいか」「どのように関わって良いか判らない」等のご相談は多いです。親子の関いや環境が少しでもよりよい形になってゆけるよう、一緒に考え、医療や福祉サービス等、何か利用できる社会資源があれば繋げてゆく事も家庭児童相談員の仕事です。

ごあいさつ

城東区長 大東辰起